



放送大学跡地を活用した 災害臨時FM局の運用について

令和3年8月24日
東京都北区防災・危機管理課

区民への情報伝達手段の現状と課題

- 1 防災行政無線（同報系）60MHz帯
基地局 北とぴあ(18F)
区内110か所に拡声子局を設置
ノアラート、避難情報、気象警報、地震、
コロナ、選挙、夕焼けチャイム等
主に、録音した音声をスケジュール放送

平時は「うるさい」
暴風雨では「聞きづらい」

- 2 戸別受信機（ポケベル波帯）
ノアラート、避難情報、気象警報、地震等
対象：避難所、保育園、自治会・町会等
聴覚障害者（文字放送）
専用受信機 約1000台（少ない）
- 3 区内に運用中のコミュニティFM局なし
- 4 メールマガジン、SNS、ホームページ等



災害臨時FM局への期待と北区の課題

1 災害臨時FM局への期待

- 自宅内で個人が保有している**FMラジオで受信可能**（専用機器不要）
車中避難でも情報を受け取ることが可能、情報弱者になりやすい高齢者への適用性が高い
- あらかじめ周波数が決まっていれば、**区民への周知も容易**
（急に周波数割り当てをもらっても区民への周知に時間がかかる）
- 各避難所の状況、給水、入浴、災害ごみ回収、ボランティア情報、物資配布等の
被災者を直接支援するための**地域密着情報**（数分番組）を**繰り返し提供**できる

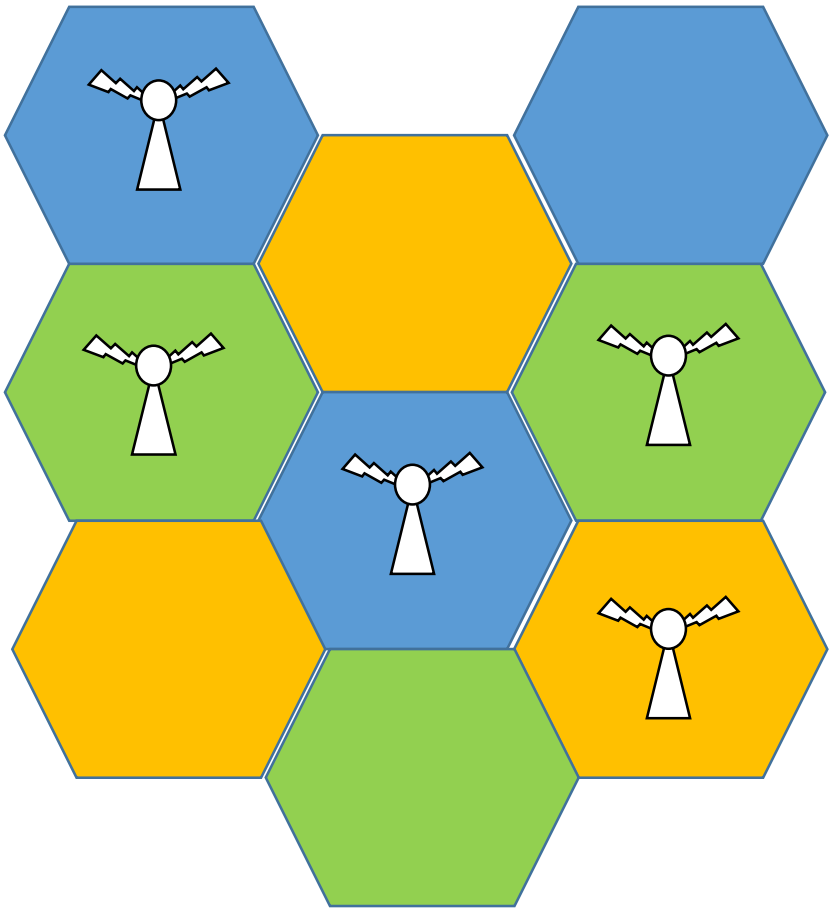
2 北区の抱える運用上の課題等

- 平時は機材を防災センターに保管し、発災直後ではなく少し落ち着いてから展開し運用することを想定
- 北とぴあ屋上から送信し、区内全域をカバーした運用を想定するも電波実測等は未実施
- 運用に関する無線従事者、技術者、予算、規定などの、具体化が十分にできていない
- 運営はJCOM様と協定はあるものの細部具体化に至っていない




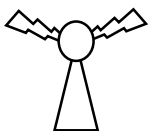
複数の自治体で周波数を共有する方策

- 近隣自治体とのグループ設定、時間割等は、横断的かつ専門的見地から**関東総合通信局様による運用上の統制**が必要
- **毎時定刻に放送**すると住民にもわかりやすく、録音番組のタイマー設定もしやすい
- 設備共用（例 東京タワー）については、放送原稿や録音データの接受に難あり（政府広報等用？）
- 関東一円で設備共用すると、1つの自治体に割り当てられる時間が少なくなる恐れ

【隣接自治体と運用時間割り当ての考え方】



【時間統制する案】

	AGp 毎時0分から20分
	BGp 毎時20分から40分
	CGp 毎時40分から00分
	FM運用自治体

放送頻度(案)：1回10～15分程度の放送を一日当たり6回程度

専用周波数確保のメリット

- 1 特に首都圏において災害臨時FM局のための割り当て周波数が枯渇する中、各自治体が災害専用周波数として共有し、運用できることは**被災者生活支援・復旧業務に効果的な方策と認識**
- 2 あらかじめ周波数が確定していることからハイウェイラジオ(1620kHz)と同様に**簡単・明快**
- 3 将来的には防災ラジオ製品等へのプリセット化も期待
- 4 臨時割り当て周波数ではない為、**平素から住民広報のための各種印刷物等で周知**できる (細部次ページ)

平素から専用周波数、放送時間を住民へ周知

北区広報 発行・北区 編集・防災防災推進課
〒114-8508 東京都北区王子本町1-15-22

☎3908-1111 北区役所の災害台番号です。
ホームページアドレス <http://www.city.tkyo.jp/>

7/20 北区ニュース 臨時災害FM放送 77.1MHz

2024年(2024年)

北区には、荒川をはじめ、石神井川など様々な規模の河川が流れていて、このような水辺空間は、まさに風光明媚な景観をもたらしていますが、台風などで大雨が降ると、河川氾濫などの水害を引き起こす可能性があります。

特集号では、新たに策定した「大規模水害(荒川の氾濫)を想定した避難行動の基本方針」[2・3画]のほか、様々な水害への対策について紹介します。

想定する水害によって開設する避難場所が異なります

北区では、水害から避難するための避難場所を見直し、A.荒川の氾濫を想定した場合(高台水害対応避難場所)、B.石神井川の氾濫/土砂災害(がけ崩れ)を想定した場合(水害対応避難場所)に分けて整理しました。

水害発生のおそれが高まった際、予想される河川の氾濫や水害の規模に応じてA.またはB.の避難場所の開設を決定します(予想される河川の氾濫や水害は下記参照)。

避難場所の開設情報は、ホームページや防災気象情報メール等から確認することができます。

A 荒川の氾濫を想定 高台水害対応避難場所	B 石神井川の氾濫/土砂災害(がけ崩れ)を想定 水害対応避難場所
<p>気象情報等により、荒川の氾濫が想定されると判断した場合に開設します。浸水期間が長期間にわたることや、台風の影響などは前もっての予測が可能なことから、浸水の危険の少ない高台エリアにだけ避難場所に開設します。また、荒川の氾濫が想定される大型台風の上陸の際は、石神井川等他の河川の氾濫や土砂災害の発生の可能性もあるので、注</p> <p>(想定する災害)</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川の氾濫、新河岸川の氾濫、墨田川の氾濫、石神井川の氾濫 土砂災害(崖くずれ) <p>(想定される気象状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型台風の上陸 <p>(想定される被害/地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川・石神井川・新河岸川等の氾濫の浸水想定地域(低地部)の浸水 土砂災害警戒区域の土砂災害の発生 	<p>気象情報等により、石神井川の氾濫が想定されると判断した場合に開設します。浸水する時間が数時間と比較的に短い見込みであること、集中豪雨などは前もっての予測が困難なことから、被害の発生が想定される場所の付近に避難場所を開設します。また、土砂災害警戒区域等の被害が想定される場合も、対象範囲は限定的であることから、限定的に避難場所を開設</p> <p>(想定する災害)</p> <ul style="list-style-type: none"> 石神井川の氾濫 土砂災害(崖くずれ) <p>(想定される気象状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都内に線状降水帯が発生、都内に集中豪雨(ゲリラ豪雨)が発生 <p>(想定される被害/地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 石神井川の浸水想定地域(石神井川周辺)の浸水 土砂災害警戒区域の土砂災害の発生

広報紙 毎月1日10日20日発行
(紙・デジタル)

防災地図等の資料
への周知の例

保存版 令和2年(2020年)7月1日発行

北区防災地図

大震災に備えて

この「北区防災地図」は、避難場所・避難経路の確保や大震災が起きた際の対応方法についてまとめたものであります。ご覧いただく、一人でも多くの人が災害から身を守り、地域の被害を減らすよう、ご協力をお願いします。

災害時タイムライン

- 0分**

最初の大きな揺れはおおよそ1分

 - まず身を守る
揺れが止まるまで机やテーブルの下などに隠れる
- 1分～2分**

揺れがおさまったら行動開始

 - 大元の確認
2分～7分程度の揺れが止まった後に実施
 - 家族の安全を確認
揺れの最悪の予想に比べて、4分～5分程度は揺れが止まる
 - 電子スリッパを履く、持ち運ぶ
2分～5分の揺れが止まるまで、履き替える
 - 必要に応じて、すぐに避難
避難場所が崩れる恐れがある場合は、すぐに避難する
- 3分**

近所の人たちと安全確認

 - 近所の人たちに声をかけず
自分だけが避難した場合は、近所の人に声をかける
 - 火が燃えている、おぼろげに煙が立ち上っている
火災の発生を確認し、避難場所を確認する
 - 避難しない
2分程度は揺れが止まる
- 5分**

正しい情報を手に入れる

 - 防災無線の情報を確認
エリアメールや防災行政無線などから情報を得る
 - テレビやラジオをつける
最新の情報を確認する
 - 大声で知らせる
その場が暗いと見えないとき、近所の人に知らせる
 - できるだけ電話は使わない
電話回線の混雑を防ぎ、緊急時に使えなくなる
- 10分～15分**

避難やその後の生活

 - 歩いて避難する、車は使わない
避難場所の確保が完了したら、徒歩で避難する
 - 避難所二次災害に注意
避難所へ避難した後は、避難所の状況を確認する
 - 家で生活できない場合、水・食料は減らして持ち帰る
避難1日分の飲料水と食料を確保しておく

区からの情報発信

防災行政無線
区内にある防災行政無線スピーカーから避難指示、Jアラートや災害に関する情報が放送されます
自動音声応答サービス0120-061-724 (無料)

災害FM放送 77.1MHz 偶数時 00分から20分間
避難所情報、給水、入浴、災害ごみ回収、ボランティア、物資配布等を放送します
※開設運用した際はホームページ等でお知らせいたします